

第二部 各論

第一編 政治問題

目次

第一編 政治問題	一九九頁
第一章 概説	一九九
一、外交交渉ノ頓挫	一九九
二、會議ノ繼續ト安全問題ニ關スル委員會	二〇〇
第二章 安全問題ニ關スル佐藤全權ト佛外相「バルトウ」トノ壽府私的會談	二〇〇
一、佛國ノ主張	二〇一
二、我方ノ主張	二〇一
第三章 安全問題ニ關スル諸委員會	二〇二
第一節 條約履行保障委員會	二〇二
一、條約履行保障委員會ノ設置及構成	二〇二
二、議事經過	二〇二
三、「ブルカン」「ノート」ノ大要	二〇四
第二節 安全問題特別委員會	二〇六
一、安全問題特別委員會ノ設置及構成	二〇六
二、議事經過	二〇七
三、「ポリチス」報告ノ要旨	二〇八
附屬 政治問題ニ關スル重要會議文書表	二一〇

第一編 政治問題

第一章 概 説

一、外交々々ノ頓挫

英政府ハ三月二十八日佛政府ニ對シ後者ノ要求スル條約履行保障ノ性質ヲ明カニセンコトヲ求メタルニ佛政府ハ四月六日第一次回答ヲ發シ英政府ヨリノ照會中明確ナラサル佛獨軍備許容範圍ニ付反問スル所アリ英政府ハ四月十日右ニ對シ一、目下研究中ノ軍備ニ關スル條約ニシテ假リニ條約履行ノ保障ニ關スル協議成立スル場合、佛政府ハ此ノ種條約ノ基礎トシテ一月二十九日附英覺書ヲ受諾スルノ用意アリヤ

二、前項質疑ニ對スル回答ニシテ假リニ肯定ナル場合、佛政府ノ提案スル履行ノ保障トハ正確ナル意味ニ於テ如何ナル性質ノモノナリヤ

ノ二點ヲ明カニスルコトヲ求メタルニ佛政府ハ四月十七日附覺書ヲ以テ獨再軍備ノ徵候顯然タル現狀ニ於テ獨逸ノ再軍備ヲ合法化スルカ如キ條約ヲ締結スル能ハサル故ヲ以テ敢テ履行保障ノ内容ヲ提示スル所ナシ（第一部第一編第三章參照）

他方獨逸ハ四月十六日ノ聲明ニ於テ一月二十九日附ノ英國覺書ヲ或點ニ付修正ヲ加ヘテ受諾スル用意アル意思ヲ明カニシ安全問題ニ關シテ「ロカルノ」條約ヲ尊重スルコト及獨ノ聯盟復歸ハ軍縮問題ノ解決就中獨逸ノ軍備平等權ノ問題ノ解決ノ後ニノミ考慮シ得ヘキコトヲ表示セルモ佛ノ前述ノ態度ニ依リ英ヲ調停者ノ立場ニ置キタル過去數ヶ月ノ外交々々涉ハ茲ニ失敗ニ歸シ英ハ軍縮會議ニ見切りヲツケ敢テ打切りヲモ辭セサル態度ヲ示シ内ニ軍備ノ充實就中空軍充實ノ計劃ヲ進ムルニ至レリ

二、會議ノ繼續ト安全問題ニ關スル委員會

前述英ノ態度ニ反シ佛ハ四月十七日ノ對英覺書ニ於テモ明カナルカ如ク會議ノ繼續ヲ主張シ自ラ會議決裂ノ責ヲ負フカ如キ外觀ヲ避クルト共ニ他方小協商白、波トノ特別ナル關係ノ強化ニ努力シ蘇ト接近シ其ノ聯盟加入ヲ支援シ更ニ東歐諸國間ノ地方的相互援助協定及地中海協定ヲ實現シテ獨ノ野心ヲ挫キ進ンテ英、伊ニモ了解ヲ付ケ獨カ孤影止ムナク聯盟ニ復歸スルカ如キ形勢ヲ創造セント企圖ス

從テ五月末ヨリ六月初メノ幹部會及一般委員會ニ於テハ佛ハ安全問題ノ研究ヲ第一義トシテ會議ヲ續行センコトヲ強調シ爲ニ英佛ノ兩主張ハ衝突シ會議ハ將ニ決裂ノ危機ニ瀕シタルモ英佛間ニ辛シテ妥協成立シ地方的相互援助問題ヲ研究スル安全特別委員會條約履行保障委員會ヲ設ケ武器取引及製造委員會及空軍委員會ヲ再開スルコトニ決シ以テ會議繼續ノ表面ヲ糊塗スルニ至レリ

右諸委員會ニ對シ伊ハ政治的問題ノ解決ツカサルニ之ヲ開クモ實效ナシトテ「オブザーヴァー」ノ態度ヲ採リタリ我方積極的ニ討議ニ參加スルコトナク靜觀ノ態度ニ出ツ

他方蘇聯ハ軍縮會議ノ行詰リニ乘シ之ヲ變シテ常設的ノ安全會議トシ平和ノ脅威ニ備ヘンコトヲ提議シタルモ英米等不賛成ノ意ヲ表シ結局右蘇提案ハ各國政府ニ移牒シテ其ノ意見ヲ求ムルコト、ナレリ

前記諸委員會ハ空軍委員會ヲ除キ六月十三日ヨリ七月二日迄ニ一通リ開催セラレ安全特別委員會ハ地方的相互援助協定ノ模範的型式トシテ一九二八年聯盟總會ノ勸告セルD型條約ヲ勸告スル報告ヲ採用シ條約履行保障委員會ハ保障方法ノ大綱ニ關スル「ブルカン」ノ「ノート」ヲ修正シ之ヲ「ヘンダーソン」ニ送付シタリ

第二章 安全問題ニ關スル佐藤全權ト佛外相「バルトウ」トノ

壽府私的會談

一、佛國ノ主張

六月一日「バルトウ」ノ小午餐會ニ於テ「バルトウ」ハ佐藤全權ニ對シ自分ハ會議繼續ヲ絕對必要トスルモノニシテ其ノ間安全保障問題ニ目鼻ヲ付ケ度ク考ヘ居レリ而シテ自分等ノ欲スル所ハ歐洲ノ地方的協定ニシテ一九二四年ノ「プロトコール」時代トハ十年後ノ今日世界情勢頗ル相違シ一般協定ヲ夢ミルヲ得ス又波蘭「バルチツク」沿岸諸國蘇聯邦ニ獨逸ヲ加ヘ東方國境ノ相互援助協定ヲ設ケ進テハ地中海協定ヲ設ケヘタ事態此處迄進捗セハ英國ト雖モ今日ノ如ク超然タルヲ得サルヘシ且五月三十日ノ會議以後英佛間意見ノ相違甚タシキコト現實ニ暴露セラレタルモ兩國共國交ノ疎隔ヲ欲セサレハ必ス其ノ內妥協點ヲ見出シ得ヘク又軍備ノ平等權ハ元來英國ニモ危險ヲ及ホスヘキ性質ノモノニシテ英人ハ未タ此處ニ氣付キ居ラサルニ過キス其ノ內感知スルニ至ルヘシトノ意見ヲ述ヘタリ

二、我方ノ主張

前述「バ」外相ノ內話ニ際シ地方協定問題ニ關聯シテ佐藤全權ハ同外相ノ言ヲ多トシ日本政府ノ常ニ主張セル點ハ安全保障條項ヲ地方的トスヘシト云フニ存スルコトヲ述ヘタルニ「バ」ハ之ヲ首肯シタルカ佐藤全權ハ安全保障問題ニ付懇談ヲ行フ必要アリト認メ六月五日佛外相ヲ往訪日本政府モ安全保障カ軍縮ト密接ノ關係ヲ有シ適當ノ保障ナクシテ軍縮實現ノ困難ナルハ良ク了解シ居ルモ本問題ハ地方別ニ考フルヲ要シ異リタル地方ノ特種狀況ニ適應セシムルコト必要ナルノミナラス又保障條約締結ノ相手國ニ依リ保障ノ内容ヲ異ニスヘク例ヘハ極東方面ニ在リテハ日支間關係ノ現狀ニ在リテハ保障條約ノ締結ハ問題トナラス蘇聯邦トハ先年同國ヨリ不侵略條約締結ノ申出ニ接シタルモ日本政府ハ先ツ同國トノ間ニ懸案トナリ居ル重要政治經濟問題ヲ解決シタル後ニ非サレハ同條約ヲ考慮シ得スト爲スモノナリ反之米國トハ來年ノ海軍會議ヲ控エ太平洋上ノ安全保障問題ハ重要事項トナレリ何レニスルモ地方別若クハ相手國ニ依リ考フルヲ要シ佛外相カ主義上大體同様ノ見解ヲ有セラルルヲ多トス而シテ日本ハ軍縮ノ現狀カ歐洲問題ニ集中セラレ居ルニ顧ミ保障問題其ノ他ニ付テモ出來得ル丈ク傍觀的態度ヲ執リ歐洲問題ノ解決ニ貢獻シ得サル迄モ少クトモ此ノ上障害ヲ増ササ

ル様心懸ケ居レリト説明シタリ

右ニ對シ「バルトウ」ハ充分理解アル態度ヲ示シ極東ニ於テ日本ノ有スル重要ナル使命ハ良ク了解シ居レリト述ヘ進ンテ蘇聯トノ關係ニ付質問セルニ付佐藤全權ハ帝國政府ニ毫モ進ンテ蘇ト事ヲ構フルノ意思ナキヲ明カニシタルニ「バルトウ」ハ日本政府ノ態度ヲ多トシ出來得ル丈ク戰爭ハ回避セサル可カラスト爲シ自分等ノ考フル安全保障ハ歐洲ニ限リ且ツ獨ヲ加ヘテ東歐ノ安全ヲ確保セントシ決シテ獨ニ對抗シ之ヲ包圍センカ爲メノ計劃ニ非ス自分ハ切ニ獨ノ聯盟復歸ヲ希望スルモノナリト云ヘリ

第三章 安全問題ニ關スル諸委員會

第一節 條約履行保障委員會

一、條約履行保障委員會ノ設置及構成

六月八日一般委員會ハ條約履行保障ノ問題ヲ研究シ且監督問題ノ研究ヲ續行スヘキ特別委員會ヲ設置スルコトヲ決議シ六月十一日ノ會合ニ於テ「ブルカン」ヲ議長トスル監督委員會ニ和蘭代表ヲ加ヘテ本問題ヲ研究セシムルコトヲ決シタリ其ノ際「ブルカン」議長ニ於テ必要ト認ムル時ハ他國ノ代表ヲモ參加セシメ得ルコトヲシタルヲ以テ六月十三日第一回會合ニ於テ瑞典及「ユーゴースラヴィア」ヲ加フ參加國左ノ通リ

日(横山代表代理、西原陸軍中佐、安東書記官ヲ委員トス)「アルゼンチン」埃、西、米(「ウィルソン」「マイヤー」佛(「オーベール」「バドヴァン」)伊、諾、和、波、羅、英(「マルキン」「ストラング」)土、蘇(「スタイン」)瑞典、「ユーゴースラヴィア」但伊ハ「オプザヴァー」ノ資格ニテ參加ス

二、議事經過

(一) 條約履行保障委員會ハ六月十三日第一回非公開會合ヲ開キ監督問題ヲ後ニ讓リ履行保障問題ヲ先議スルコトヲ決定

シタル後佛ハ本問題ニ付テノ一九三三年十二月五日「ヘンダーソン」宛佛「ノート」ハ討議ノ基礎トハ爲シ得ス本問題ハ嚴重ナル監督制度相互援助協定ノ適用ト密接ナル關係アリト述ヘ米ハ安全問題ニ對スル其ノ態度ヲ繰返シ本問題ニ付テハ積極的約束ハ爲シ得サルモ之カ實行ニ妨害ヲ與ヘサルヘク後日右ニ關スル聲明ヲ爲スコトアルヘシト云ヒ我方ハ本問題ハ佛ノ云ヘル如ク嚴重ナル監督制度ト密接ナル關係アリ監督問題ニ關シ先ニ監督委員會ニ於テ佐藤代表ハ一般の留保(註一)ヲ爲シタルカ右ハ本問題ニ付テモ同様ニ援用セラルヘク本問題ノ討議ニハ積極的ニ參加シ得サルヘシトノ留保ヲ爲セル處蘇ハ監督委員會ニ於ケルト同様ニ普遍的適用ヲ必要トスル旨ノ留保ヲ爲セリ討議手續ニ付議論ノ結果本問題ニ關シテ私的會談ヲ行ヒ討議ノ基礎ヲ見出し技術的方面ヲ審議スルコトニ決定ス

(註一) 昭和八年十一月十三日監督委員會第一回會合ニ於テ佐藤全權ハ現地調査ニ關シ從來帝國ノ爲シ米レル一般の留保ハ依然存続スルモノナルコトヲ述ヘタルカ右一般の留保ハ主トシテ監督問題ニ關スル「ブルカン」第二次報告第五頁脚註ニアル我方留保ヲ指スモノニシテ内容左ノ通り

La Délégation japonaise, tout en se ralliant à l'adoption provisoire de ces principes, a déclaré ne pouvoir fixer définitivement son attitude à leur égard qu'ultérieurement lorsque toutes les conditions juridiques et techniques du problème seront connues.

Il conviendra d'examiner plus tard si ces dispositions doivent figurer comme des clauses facultatives dans la Convention générale du Désarmement, ou s'il y a lieu de les insérer dans une Convention régionale.

La question ne pourra être réglée que quand sera connue l'architecture d'ensemble des actes élaborés par la conférence.

(二) 右決定ニ從ヒ「ブルカン」ハ主要關係國代表部ト意見ヲ交換シタル後其ノ結果ニ基キ保障方法ノ大綱ヲ説述セル議長ノ「ノート」ヲ作成シ之ヲ六月二十八日第二回會議ニ附議ス他方會議事務局側ニ於テモ條約履行保障問題ノ資料及方法ヲ説述セル覺書(Conf. D./C. G./C.G.E./I)ヲ配布シタリ

右六月二十八日ノ會合ニテ議長ハ本委員會ニ參加セル國ノ政府ニ右「ノート」ヲ送リテ其ノ意見ヲ求メタル後案文ヲ

作成スヘシト提議シタルモ「ユーゴースラヴィア」等ハ安全特別委員會ノ例ニ依リ一般委員會ニ報告ヲ提出スヘシト云
ヒ又和蘭ハ一般委員會ニ質問集ヲ送り後案文ヲ作成スヘシト主張シ議論岐レタリ

右ニ對シ英ハ本問題ハ現在ハ本委員會トシテ一般委員會ニ報告ヲ提出スル迄研究セラレサルヲ理由トシテ報告提出ニ
反對シタルカ佛ハ「ブルカン」ノ「ノート」ニ付直ニ意見ノ交換ヲ行フヘシト主張シ結局「ノート」ニ付一應ノ意見
ヲ交換シ「ブルカン」ニ於テ「ノート」ヲ修正シ之ヲ「ヘンダーソン」議長ニ送付スルト共ニ各委員ニ於テ其ノ政府
ノ意向ヲモ尋ネ考究シタル後會議ヲ再開スルコトニ決定シテ散會シタリ

尙我方ハ右「ノート」中ニ一般留保ノアルコトヲ記載セシムルコトトセリ

三、「ブルカン」「ノート」ノ大要

「ブルカン」ノ修正「ノート」ノ内容概略左ノ如シ

1. 履行保障問題ハ複雑ニシテ機微ナルモノアルモ常設の監督ノ存在ハ保障組織ヲ容易ニスヘキヲ以テ今日ヨリ之カ解
決方法ノ大綱ヲ見出スコト可能ナルカ如シ
2. 本問題ニ付テハ法律の機構及其ノ約束ヲ明確ニスルコトヲ重要視スルモノト柔軟性アル形式ヲ可トスルモノトノ二
傾向アリ若シ實際の效果ニ到達セントセハ此ノ二傾向ヲ調和スルコト必要ナリ
3. 本問題ノ主要難點ハ履行ノ保障ヲ其ノ照應スル不履行ノ重大性ニ比例セシムルノ必要ヨリ來ル
4. 違反ノ重大性ハ種々ノ要素ニ依リ決定セラレ得
其ノ内第一ニ考慮ニ入ルヘキハ不履行ノ性質及範圍ニシテ或ハ質的或ハ量的理由ニ依リ其ノ重大性カ直ニ現ハルル違
反モアレハ最初ハ其ノ性質ヲ現ハササルモ永續シ又ハ繰返ヘサルルコトニ依リ憂慮スヘキモノトナル事實アリ規則違
反ノ期間ト度数トハ亦考慮ニ入ルヘキ標準ナリ
5. 以上ノ考慮ニ基キ主ナル假定ヲ四種類ニ分チ夫々適當ナル制度ヲ定メ得ヘシ

6. 第一種 輕度ノ不履行ニシテ一見條約ニ故意ニ違反シタルモノト見エサルモノ

右ノ場合ニハ右不履行ニ付當事國ノ政府ノ注意ヲ喚起スヘク右ハ最モ簡單且慎重ニ之ヲ爲スヘキナリ

現地調査ヲ行フ監督委員會ノ通用ノ爲ニ設ケラルル手續ハ夫レ自身右要求ヲ満足セシムル方法トナルヘシ

7. 第二種 夫レ自體トシテサシテ重大ナラサルモ其ノ期間又ハ其ノ數ノ爲ニ一歩進ミタル矯正手段ヲ適用スヘキ違反

- a. 期間ノ爲ニ第一種ノ不履行ニシテ監督委員會ニ依リ規則違反ナルコトニ付責任政府ニ注意ヲ喚起セラレタルニ拘
ラス然ルヘキ期間ニ之ヲ止メサル場合

b. 其レ自體重要性ヲ帶ヒサルモ同時ニ數ヶ所ニ於テ行ハレ又ハ繰返ヘサルル爲憂慮スヘキ性質ヲ帶フル違反

右ニ對シテハ常設軍縮委員會又ハ其ノ權限ヲ委任スル機關ノ干涉ヲ規定スヘキナリ

右干涉ハ一定ノ期間内ニ條約ヲ遵守スル様招請スルノ形式ヲ採リ政治の性質ヲ帶フルモ尙友誼の通告ノ範圍ニ止マ
ル

8. 第三種 其ノ性質又ハ範圍ニ依リ重大ナリト認メララルル違反ニシテ故意ニ爲サレタルモノナルモ第四種ト異ナリ尙 救済ノ望アルモノ

右ニ對シテハ協同行爲ハ一層斷乎トシ且緊急ナルヲ要シ先ツ常設軍縮委員會ハ至急違反國政府ニ違反ヲ止ムルコトヲ
正式ニ招請スヘシ

右招請ニハ締約國カ共同シテ外交の申入レヲ爲スコト有效ナルヘシ

常設軍縮委員會ノ招請又ハ外交の申入レカ何等ノ效ヲ奏セサル時ハ條約ハ最後ノ方法トシテ或種經濟的壓迫ヲ加フル
コトヲ規定スヘシ右方法ハ消極的及積極的ノ二面アリテ一方武器及原料（違反ノ性質ニ依リ定マルヘキ）ノ違反國宛
輸出禁止、他方違反ニ依リ直接脅威セララルル國ニ對スル便宜供與ヨリ成ル

各事件毎ニ一般的義務ノ實行ニ付執ルヘキ措置方法ヲ何人カ決定スヘキノ問題アルカ常設軍縮委員會カ之ヲ決定スル

コトモ締約國ノ各々カ自身ニテ之ヲ決定スルコトモ不便アルヲ以テ右ハ常設軍縮委員會ニ特別多數決ニ依リ勸告ヲ爲スノ權限ヲ認ムルコト可ナルヘシ

佛代表部ハ常設軍縮委員會カ違反ヲ認メタル後前記義務ノ實行方法ヲ決定スルヲ當然ナリト認ム

9. 第四種 其ノ性質及範圍ニヨリ且一般のニ其ノ現ハルル條件カ戰爭ノ危險ニ直面セシムル違反

右ノ場合吾人ハ巴里規約違反ノ脅威ニ面スルモノナルヲ以テ嚴格ナル意味ノ安全ノ問題ニ面ス從テ前述ノ共同的措置ニ安全保障ノ方法加ハリ來ルヘキカ安全問題ノ研究ニ付テハ特別委員會アルヲ以テ之ニ讓ル

但シ佛代表部ハ第三種ノ違反ト安全特別委員會ノ研究目的タル所謂侵略トノ間ニ履行保障委員會ノ研究スヘキ中間ノ狀態アリト爲ス此點ニ付一九二七年聯盟總會カ理事會ノ行動ノ貴重ナル手引ナリト決議セル報告(Doc. C. 169, M. 119, 1927)中ノ措置ヲ考慮ニ入レ得ヘシ

10. 違反ノ重要性ノ程度ノ決定ハ常設軍縮委員會ニ於テ條約自體ニ依リ與ヘラレタル定義ヲ適用シテ之ヲ爲ス且又上述ノ如ク重大ナル違反ノ場合ニハ執ルヘキ經濟的壓迫ノ措置ニ關シ勸告ヲナスヘキナリ

右ト平行シ且聯絡シテ不侵略地方的相互援助協定締結國間ニ於テ其ノ態度ヲ能フ限り一致シ且共同動作ヲ取ル爲協議ヲ爲スコト甚タ望マシキコトナリ

11. 英案第八八條除外例ノ規定ハ之ヲ存置スルコト可ナルヘシ

12. 右「ノート」ハ或種解決方法ヲ提示シタルニ過キサレヲ以テ之ヲ補正スルコトヲ要スヘク其ノ缺點トシテハ例ヘハ化學戰武器使用禁止ニ關スル履行保障問題ニ付述フル所無キヲ擧ケ得ヘシ本委員會ハ右ニ關スル提案アラハ充分之ヲ審議セン

第二節 安全問題特別委員會

一、安全問題特別委員會ノ設置及構成

六月八日一般委員會ハ會議外ニ於テ安全ノ新地方協定ノ締結ヲ容易ナラシムル爲適當ナリト認ムル豫備の研究ヲ遂行スル特別專門委員會ヲ設置スルコトヲ決議シ同十一日全歐洲國ノ代表部ヲ以テ右特別委員會ヲ構成シ「ボリチス」ヲ議長ニ任命セリ

右委員會構成ニ際シ英ハ右委員會ニ參加スルモ歐洲大陸ニ付新義務ヲ負ハントスルモノニ非サルコトヲ聲明シ伊及洪ハ「オブザーヴァー」ノ資格ニテ參加スルモノナルコトヲ明ニス

二、議事經過

本特別委員會ハ六月十八日第一回會合ヲ行ヒ議長ハ軍縮會議内外ニ於ケル安全問題ノ狀態ニ關スル事務局作成ノ調查書(Conf. D./C.G./C.A.S./2)ヲ提出シ右調查ノ内容ヲ概説シ安全地方協定ノ思想ハ一九二六年及一九二八年二回ニ互リ聯盟總會ノ賛成ヲ得タルモノナルコトヲ注意ス

一般の意見交換ノ後同委員會ハ同日ノ第二回會合ニ於テ西、芬、佛、和、波、英、土、「ユーゴスラヴィア」、蘇、洪(「オブザーヴァー」ノ資格)ノ代表ヨリ成ル專門委員會ヲ組織シ安全地方協定問題ノ諸點ヲ研究セシメ其ノ研究ノ結果ヲ結論ノ形式ヲ以テ提出セシムルコトヲ決定ス

右專門委員會ハ五回會合(最初ノ三回ハ「ロベス、オリヴァン」(西)ヲ、後二回ハ「ボリチス」ヲ議長トセリ)先ツ左記諸條文ヲ審查シ―

客年安全委員會ノ作成セル歐洲安全協定案、侵略者決定議定書、「ロカルノ」ノ「ライン」協定、一九二八年聯盟總會ノ勸告セル不侵略及相互援助條約形式、一九三四年「バルカン」協定、各種形式ノ現行不侵略二國間條約、一九二三年相互援助條約案、一九二六年及一九二八年聯盟總會ノ各種決議並侵略者決定ニ關スル一九三三年ノ倫敦條約―歐洲國間ニ相互援助ノ安全條約ヲ締結スルコトノ可能性ニ付意見ヲ交換シタル後一九二八年聯盟總會ノ勸告セルD型條約ヲ各政府ニ勸告スヘキモノナリトノ結論ニ到達シ「ボリチス」ハ右趣旨ノ報告ヲ作成シタルヲ以テ本委員會ハ六月二

十五日之ヲ採擇シテ散會シタリ

三、「ボリチス」報告ノ要旨

(一) 一般の意見

1. 安全地方協定ハ第一ニ一般大協定（聯盟規約、巴里規約）ト兩立シ及締約國間又ハ第三國ト先ニ締約セラレタル特別協定ト調制セラルルコトヲ要ス
 2. 右協定ハ一國又ハ他ノ國家團ニ對抗セシムヘカラス
 3. 安全地方協定ハ必スシモ其ノ地域ニノミ適用ヲ限定スルモノト解スヘカラス大數ノ國家間ノ協定ニモ適スルモノナリ
 4. 一九二八年仲裁及安全委員會ニ依リ認メラレタルカ如ク非聯盟國タル歐洲國カ右協定ノ締結ニ參加スルコトハ有用ナリ
 5. 此種協定ノ締結ヲ容易ナラシムルニ最モ適當ナル型式ヲ研究スルニハ「ロカルノ」協定及一九二八年相互援助條約ノ型式ノ外爾後締結セラレタル現行ノ協定例ヘハ一九三三年ノ侵略者定義ニ關スル倫敦協定及一九三四年ノ「バルカシ」協定ヲ考慮スルコト必要ナリ
- (二) 歐洲ニ於ケル安全地方協定トシテ勸告スヘキ基礎
1. 上記ノ次第ヲ考慮シ委員會ハ安全地方協定ノ締結ヲ容易ナラシムル最モ適當ナル基礎トシテ一九二八年聯盟總會ノ勸告セル相互援助ノ共同條約型式（條約D）ヲ各政府ニ勸告ス
 2. 右條約ノ型式ハ柔軟性ヲ有シ歐洲各地方ノ政治的及地理的要求ニ適應セシムルコトヲ得
 3. 從テ締約國ハ右條約ノ型式ニ事情ニ依リ有用ナル修正ヲ加ヘ得ヘキカ根本的三要素即チ不侵略、紛争ノ平和の處理、相互援助ノ配合ヲ尊重スヘキナリ

變體ノ例トシテ

- a. 明白ナル侵略ノ場合ニ關シ「ロカルノ」條約第四條ノ三ノ如キ規定ヲ加ヘ
- b. 侵略者ノ定義ニ關シ倫敦條約ノ如キ規定ヲ挿入スルコトヲ得

（以下省略）

附屬

政治問題ニ關スル重要會議文書表

一九三四年四月十七日佛政府對英回答—佛政府青本	Négociations relatives à la réduction et à la limitation des armements
同 年四月十六日獨政府聲明—英政府公表白紙	Miscellaneous no. 5 Further Memorandum on disarmament
同 年四月九日ヨリ五月二十三日ニ至ル議長報告	Conf. D./Bureau/59
同 年六月八日一般委員會決議	Conf. D./Bureau/64.
條約履行保障問題ニ關スル事務局覺書	Conf. D./C.G./C.G.E./1
同問題ニ關スル「ブルカン」「ノート」	Conf. D./C.G./C.G.E./4(1)
安全問題ニ關スル覺書	Conf. D./C.G./C.S.S./2
地方的相互援助協定ニ關スル「ポリチス」報告	Conf. D./C.G./C.S.S./3

第二編 武器取引及製造問題